

## 地域医療の現場から



## 住民の顔が見える

## 地域医療・福祉を目指して

国保和水町立病院 事務長 杉本章一

 病院の概要

- 設立年：昭和 23 年 3 月
- 許可病床数：98 床  
(一般病床 56 床、療養型 42 床)
- 入院基本料：10 対 1
- 職員数：99 人  
(医師 4 人、看護師 51 人)



## 希望(ゆめ)あふれ、人と地域が輝くまち

和水町は、熊本県の北西部、福岡県との県境に位置し、緑に囲まれた美しい自然と温泉が豊かな地域です。現在は、温泉を核とした観光ルートを開発して観光産業の育成を図り、「八つの神様」巡りが静かなブームとなっており参拝者が多く訪れています。

地域資源については、菊池川と緑の山々などの豊かな自然と、国指定史跡「江田船山古墳」及び田中城跡や、豊前街道など数多くの歴史的資源に恵まれています。

また、九州のほぼ中心部に位置し、九州自動車道菊水 I C を有し、福岡都市圏まで高速道路利用で 60 分、九州新幹線新玉名駅を利用して 35 分という、交通の便に恵まれている地域でもあります。



江田船山古墳。75 の漢字が刻まれた銀象嵌銘太刀など、多くの副葬品が出土している

## 地域住民の健康を支え続けて

当院は、菊水 I C から車で 5 分の場所にあり、昭和 23 年 3 月、江田町外三ヶ村組合立国民健康保険共立病院としてスタートし、同 29 年、町村合併により国民健康保険菊水町立病院と改称しました。同 32 年 6 月には、附属准看護婦養成所を開校し、平成 8 年 3 月に閉校するまで、1,050 名の准看護師を養成しました。昭和 51 年 4 月、県下で 2 番目の町健康管理センターを併設し、住民や事業所の健康診断や医療相談及び生活指導、人間ドック等の疾病予防を重点的に展開してきました。

昭和 60 年 3 月には病棟の改築、平成 11 年 4 月診療棟の全面改築を行い、また、訪問看護ステーション及び居宅介護支援事業所も併設し、隣接している特別養護老人ホーム「きくすい荘」とは渡り廊下でつながっており、いつでも診療ができる体制を整えています。

現在、一般病棟 56 床と療養病棟 42 床、診療科 7 科を標榜しています。

また、平成 18 年 3 月、旧三加和町との合併により、「国民健康保険和水町立病院」と名称を変え、地域の第 2 次医療機関として活動しています。

## 当院における糖尿病教室の重要性

近年、糖尿病患者が増えているといわれます。食生活の乱れや運動不足など、糖尿病にかかる可能性の高い環境になりやすい現代社会において、大きな問題となっています。

そこで、当院では、患者さんとそのご家族を対象とした糖尿病教室を定期的に開催しています。医師だけでなく、管理栄養士や理学療法士、薬剤師などの専門職が指導を行い、その結果を治療に役立てています。

糖尿病教室は、当院や町の公民館を会場に年5回行っています。糖尿病について正しく理解していただくとともに、日常生活で実践していただけるよう、医師による糖尿病の講演のほか、運動や食事指導を行います。

中でも特に喜ばれているのが、病院近くのフランス料理店での食事会です。患者さん1人1人のカロリーや好みに合わせたコースメニューをシェフに特別に作っていただき、スタッフも一緒にいただきます。糖尿病の食事療法は、とすればマイナスイメージが付きまといがちですが、このような趣向を凝らした企画を通して、食事療法継続の意欲向上につながればと思っています。



糖尿病教室での血糖値測定の様子。  
この日は糖尿病食の調理実習と食事指導が行われた

## 予防医療の必要性

この世に生を授かり一生を終える長い人生の間に、けがや病気と無縁でいられる人はいません。そして、誰も経験したことのない高齢化社会が到来します。

疾病の予防、健康維持にもいっそう努めなければなりません。当院では、県下でいち早く健診・保健事業に着目して健康管理センターを併設し、乳幼児健診及び人間ドック等の実施により、疾病の早期発見・早期治療が可能となり、多くの命が救われています。

近年は、少子高齢化や疾病構造の変化、医学・医術の進歩による医療の高度化・専門化の進展、医療機器の急速な進歩と普及等、健診事業を取り巻く環境は大きく変化しています。また、住民の健診に対する要望は、生活水準の向上、健康志向の高まりなどにより、ますます高度化・多様化しています。

このようなことから、今後は、高齢者が安心して地域に住み続けられるよう、町福祉課と連携し、高齢者の暮らしを支える仕組みづくりが求められています。これからも関係機関と協力しながら、地域住民の健康・福祉・医療を支えることが重要であると認識しています。

このような中、当院の一番の課題は医師の確保です。安定した医療の提供を行うため常勤医師の確保が急務であります。国保直診病院を含めて自治体病院を取り巻く環境は厳しいものですが、この難題に、われわれは地域医療の存続をかけて取り組んでいかなければならないと考えています。

3月11日に東日本を襲った大震災。  
被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。  
一日も早い復興をお祈りいたします。

